



Title	「一般社団法人シアター&アーツうえだ」の活動の事例研究：うえだイロイロ俱楽部を中心に
Author(s)	
Citation	令和6（2024）年度学部学生による自主研究奨励事業研究成果報告書. 2025
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/101249
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

令和6年度大阪大学未来基金「学部学生による自主研究奨励事業」研究成果報告書					
ふりがな 氏名	ほし みすず 星 美鈴	学部 学科	文学部	学年	3年
ふりがな 共 同 研究者氏名		学部 学科		学年	年
					年
					年
アドバイザー教員 氏名	伊藤寧美 先生	所属	人文学研究科		
研究課題名	「一般社団法人シアター&アーツうえだ」の活動の事例研究 —うえだイロイロ俱楽部を中心に—				
研究成果の概要	研究目的、研究計画、研究方法、研究経過、研究成果等について記述すること。必要に応じて用紙を追加してもよい。(先行する研究を引用する場合は、「阪大生のためのアカデミックライティング入門」に従い、盗作剽窃にならないように引用部分を明示し文末に参考文献リストをつけること。)				

1. はじめに

昨年度の自主研究では、自分の好きな芸術である演劇を通じて日本の子どもが抱える貧困や精神的な困難さを軽減する活動をしたいという想いから、国内における演劇を通じた居場所づくりの取り組みについて先行事例を研究した。この活動から、そもそも「演劇」という枠組みは子どもによっては敷居の高いものであることがわかった。活動を始めるにはまず、演劇や劇場に親しみを持ってもらうことが必要不可欠だったのだ。そこで今年度の自主研究では、長野県上田市において劇場とカフェ、ゲストハウスからなる文化施設「犀の角」を運営する「一般社団法人シアター&アーツうえだ¹」(以下、犀の角と記載²)が実施している活動を調査した。当初は、犀の角や地域のNPO法人が「のきした³」という団体となり協働運営している子供向け活動「うえだイロイロ俱楽部」を重点的に調査しようとしていた。しかし調査を進めるなかで、「のきした」に関わる団体と犀の角は「うえだイロイロ俱楽部」の活動以外でも連携していることを知り、また個々の連携活動についてはある程度詳細な情報が公開されているが、団体どうしの関係性や活動に対する考え方などは不明な部分が多いことに気が付いた。そのため、本研究では「うえだイロイロ俱楽部」の活動を中心に調査しつつ、犀の角と地域の団体との関係性を探る。そのうえで、演劇に興味がある人もない人も集まる劇場にするためのヒントを見出し、本報告書を読んだ全国の劇場職員が自劇場での取り組みについて考える際の参考資料となるものを作成したい。

研究の方法は、資料収集とインタビューが主である。まず、「犀の角」の活動の前提条件となると考えられる、長野県の子どもと地域の関わりや、子どもが抱える課題について県の資料などをもとに調査するとともに、Webサイト上の情報から「犀の角」や関連団体についての情報を得た。そして9月下旬と11月上旬に長野県へ赴き、彼らの活動に実際に参加したり、スタッフの方にインタビューをおこなったりした。

2. 長野県で暮らす子どもたち

2.1. 保護者のニーズ

上田市の調査⁴によると、低学年の放課後の過ごし方として親が希望しているもののうち、放課後児童クラブが最多の47.7%であり、高学年の放課後の過ごし方についての親の希望としては、61.2%の「自宅」の割合が最も高く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」の割合が50.7%であり、3番目に高いのが「放課後児童クラブ（児童クラブ・学童保育所）」の35.0%であつ

¹ 一般社団法人シアター&アーツうえだも犀の角も、代表理事はともに荒井洋文氏であり、法人の意向は犀の角の活動に直接反映されるような運営体制である。

² うえだイロイロ俱楽部の運営を担うのも正式には「一般社団法人シアター&アーツうえだ」だが、インタビューなどほとんどの場面で「犀の角」という呼称が使用されるため、本報告書での記載はすべて「犀の角」に統一する。

³ 「のきした」は以下の4団体から構成されている。

一般社団法人あそび心BASE アフタフ・バーバン信州、NPO法人リベルテ、NPO法人上田映劇、NPO法人場作りネット、一般社団法人シアター&アーツうえだ（*本報告書では犀の角と記載）

⁴ 上田市「第2次上田市子ども・子育て支援事業計画」策定のためのニーズ調査 調査結果報告書。

2019年3月. <https://www.cityUEDA.nagano.jp/uploaded/attachment/55992.pdf>

た。また、生活に困った場合に受けたい支援として就学児童の保護者が挙げているもののうち「生活や就学のための経済補助」の割合が 56.9%と最も高く、次いで「保護者がいない時や面倒を見られない時の預かり支援」の割合が 35.7%であった。

2.2 子どもたちの現状

長野県がおこなった調査⁵によると、学校をやめたくなるほど「悩んだことがある」6・17歳が一般家庭では 35.9%であるのに対し、周辺家庭⁶は 42.3%、困窮家庭⁷は 64.7%に上っている。また、子どもにサービスや支援策への利用希望や興味を尋ねたところ、「なんでも相談できる場所」を「使ってみたい」もしくは「興味がある」場所として回答した一般家庭の子どもの割合は 44.9%だったのに対し、困窮家庭では 54.2%と 10%弱の開きがある。「平日の放課後の居場所」や「夕ご飯をみんなで食べられる場所」を「使ってみたい」や「興味がある」と答えた割合も困窮家庭が一般家庭より 6~7%高かったものの 10%もの差になっているのは「なんでも相談できる場所」の項目のみであることは特徴的だ。

2.3 2章のまとめ—大人のニーズと子どものニーズ

小学校低学年、高学年ともに 35%以上の保護者が放課後児童クラブで子どもが放課後を過ごすことを希望していた。放課後児童クラブは「保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に対し、授業の終了後等に小学校の余裕教室や児童館等を利用して適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図るもの⁸」であるが、より大きくとらえると「保護者が昼間家庭にいない小学生に、放課後の適切な遊びおよび生活の場を与える」ものだと考えられる。これを踏まえると、後述する「うえだイロイロ俱楽部」の活動は放課後の小学生にとって放課後児童クラブと同等のはたらきをする場であり、保護者のニーズがあるといえる。また、困窮家庭の子どもは学校をやめたくなるほど悩む割合が高く、なんでも相談できる場所に関心を抱いていることは、学校や家庭が子どもたちの悩みを解消する場に成り得ておらず、学校と家庭以外で子どもたちが安心できる場を設定する必要があることを示していると捉えられるだろう。

3. うえだイロイロ俱楽部

本章では、犀の角が事務局となり、おもに犀の角を活動場所として開催されている「うえだイロイロ俱楽部」を取り上げる。「うえだイロイロ俱楽部」は長野県東信地域の 6~18 歳の子どもを対象とした、自由参加の部活動のような取り組みだ。30 人程度で月に一回放課後に集まり、各々の興味関心に合わせて、公園に遊びに行ったり、段ボールで工作をしたりする。ここではこの活動の概要を示したのち、実際に活動に参加したりスタッフの方にインタビューしたりして得た情報をまとめ、劇場で子どもたちを対象にした活動をおこなう意義について考えていくヒントにしたい。

⁵ 長野県県民文化部こども若者局. 子どもと子育て家庭の生活実態調査 調査結果の概要. 2023年2月. https://www.pref.nagano.lg.jp/jisedai/kyoiku/kodomo/shisaku/documents/gaiyouban_2.pdf

⁶ 東京都立大学の阿部彩教授による分類。低所得、家庭の逼迫、子どもの体験や所有物の欠如、の 3 項目のうちいずれか一つに該当する家庭のこと。

⁷ 上記 3 項目のうち 2 つ以上に該当する家庭のこと。

⁸ こども家庭庁. 「放課後児童健全育成事業について」. こども家庭庁.

<https://www.cfa.go.jp/policies/kosodateshien/houkago-jidou/overview>, (2024/12/17).

3.1. 犀の角

まず本項では、うえだイロイロ俱楽部の活動拠点である犀の角について簡単に紹介する。犀の角は、劇場設備とカフェを持つ〈シアター〉と簡易宿泊施設の〈ゲストハウス〉からなる民間の文化施設だ。シアターでは、商店街という日常空間の中にある、“開かれた非日常空間”として、新しい出会いや発見を創造し、街に還元していくことが目指されている⁹。また、ゲストハウスは別館として運営される3階建ての建物であり、最大12名が宿泊可能だ¹⁰。犀の角の代表は荒井洋文氏で、彼は大学時代に演劇に出会い、静岡県舞台芸術センター（SPAC）で制作スタッフとして勤務した経験ももっている¹¹。



図 1 犀の角 本館（劇場）外観

(出典: 石窯パン ハル¹²HP)

<https://ishigamapan-haru.com/sainotuno/>)



図 2 犀の角 別館（ゲストハウス）外観

(出典: 犀の角 HP <http://sainotsuno.org/>)

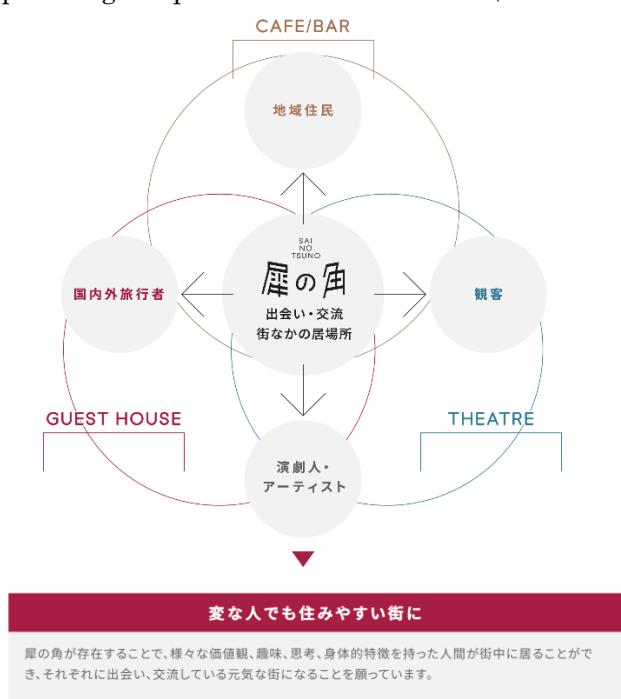


図 3 犀の角の施設とその位置づけ

(出典：犀の角 HP <http://sainotsuno.org/about/>)

⁹ 犀の角. 「犀の角について」. 犀の角. <http://sainotsuno.org/about/>, (2024/12/17).

¹⁰犀の角.「ゲストハウス」.犀の角. <http://sainotsuno.org/guesthouse/> , (2024/12/17).

¹¹ 山側(2019/8/9).『城下町で最古の商店街に現れた劇場の物語！長野県上田市にシアター&ゲストハウス「犀の角」ができるまで』. 山側. <https://yama-gawa.com/?p=6794>, (2024/12/17).

¹² 石窯パン ハルは犀の角の真横に位置するパン屋。

3.2. うえだイロイロ俱楽部とは

うえだイロイロ俱楽部は、犀の角内の劇場やレンタルスペースをおもな活動場所として 2021 年から開催されている文化クラブだ。活動頻度や期間は事務局のスタッフ数などの関係により開催年ごとに変動しているが、「やりたいことを自分で発見し、自分の意思で文化芸術活動に取り組める場¹³」づくりを目標に掲げる点は活動開始当初から一貫している。以下の表では参考として、令和 6 年度の募集情報¹⁴と一日の活動スケジュール¹⁵を示す。

表 1 令和 6 年度 募集情報

対象者	東信地域の 6~18 歳 (* 令和 6 年度は小学校高学年が比較的多い。)
総部員数	40 名以内 (* 令和 6 年度 : 30 名ほど)
募集時期	5 月 8 日~19 日
活動期間	6 月~12 月
参加費	入会金 2000 円 参加費 1500 円 (月 / 1 人)

表 2 1 日の活動スケジュール

時間	
16:45	受付開始
17:00 お知り合いの時間	集まったメンバー全員で遊ぶ その日に参加する部活動を選ぶ
17:30-18:30 各部活の時間	部活動に分かれて活動する 片付けをする
18:30-19:00 おふるまいの時間・ まとめの時間	・ おふるまい : その日の活動を部活動ごとに全員へ共有する ・ まとめ : その日の活動やこれからやりたいことについての アンケートを記入する
19:00	解散

表 2 で示した一日のスケジュールについて、その日集まったメンバー全員で活動する「お知り合いの時間」「おふるまいの時間」と各参加者の興味関心に合わせて活動する「各部活の時間」に分かれていることが特徴的だ。これによって参加者が大人数で協働する機会と、自分の好きなことを深める時間の両方が確保されている。「部活動」はスタッフが用意したプログラムではなく、子どもたちから希望のあった活動から実現可能性を考えて 5~6 種類をスタッフが選び「おしながき」として提示される。子どもたちはその中からその日参加する活動を選ぶのだが、毎回同じである必要はない。また、子どもたちの帰宅後にはスタッフだけで集まりその日の活動の情報共有をする時間が 1 時間ほどあった。

¹³ 犀の角. 「令和 6 年度の『うえだイロイロ俱楽部』参加者を募集します！」. 犀の角.

<http://sainotsuno.org/event/iroiro2024/>, (2024/12/17).

¹⁴ 2024 年募集パンフレットを参考に作成。カッコ内は筆者が今年度の状況を補足して記載。

¹⁵ 犀の角. 「令和 6 年度の『うえだイロイロ俱楽部』参加者を募集します！」, 前掲サイト.

3.3. 活動に参加して 2024/9/25

筆者は2024年9月25日に開催されたうえだイロイロ俱楽部の本年度4回目の活動に参加した。以下の表3で当日の活動内容について示し、各節でそれぞれの時間について詳細に記述する。

表3 2024/9/25 の活動内容

時間	活動内容・気づいた点
16:45 受付開始	受けつけ開始時刻前から犀の角1階のカフェスペースに集まり、スタッフとおしゃべりをする参加者が2名ほどいた。
17:00 お知り合いの時間	・お知り合いの時間： みんなで輪になり手をつないで動くレクリエーション ・9/25のおしながき（部活動）： 武器部、ボードゲーム部、推し活部、外遊び部、まち探検部、お手伝い部
17:30-18:30 各部活の時間	部活動に分かれての活動。3階建ての犀の角のなかで活動場所を分けて行う（外遊び部は外に遊びに行く）。各部活動には1名以上のスタッフがつく。
18:30-19:00 おふるまいの時間・まとめの時間	・おふるまい： スタッフもしくは参加者がその日の活動を部活動ごとに全員へ共有する。成果物を披露することもある。 ・まとめ： その日の活動やこれからやりたいことについてのアンケートを各自記入する
19:00	解散

9月25日の活動には、子どもたちの顔と名前を把握した3名のスタッフ（一般社団法人あそび心BASE アフタフ・バーバン信州¹⁶の理事・清水洋幸さん、犀の角スタッフ・村上梓さん、定期的に参加されている女性ボランティア）が参加していた。そして、9/25当日にのみ参加したボランティアとして筆者と、犀の角スタッフと面識のあった長野県在住の男性、上田に旅行中でたまたま活動を知り参加しに来た男性、の3名がいた。ボランティアとして、普段は近隣大学の学生がいるそうだが、訪問時は夏休みだったため筆者以外の大学生ボランティアは参加していなかった。子どもの参加者は30人ほどで、男女比は半々、小学2年生から中学生までの子どもが参加していた。スタッフの村上さんによると、以前から活動に参加している児童の学年が上がり、最近は新しく加入する児童も高学年が多いので、全体として現在は高学年児童が多くなっているようだ。また、登録している児童生徒は毎回の活動に参加しているわけではなく、5月の募集時に参加登録だけをおこなったまま参加はせず、9月の活動日に初めて参加した子どもがいるなど、活動頻度を選べる体制であった。

¹⁶ 信州を拠点に、あそびや表現コミュニケーション活動を通じて、子どもから大人が人やまち・地域・自然とあそび合い関わり合っていく中で、一人一人が自分らしさを発揮することや関わりの中にある豊かさを実感していくことを目指す団体。

アフタフバーバン信州.「アフタフバーバン信州紹介」.アフタフバーバン信州.

<https://asobigokorobase.jimdofree.com/%E7%B4%B9%E4%BB%8B/>, (2024/12/17).

3.3.1. お知り合いの時間

お知り合いの時間には当日の参加者全員でのレクリエーションと、筆者をはじめとする当日飛び入り参加のボランティアの自己紹介、その日のおしながき（部活動）と活動場所についての説明があった。大多数の子どもはおしながきを説明しているスタッフの話を聞いているが、なかには部屋の隅で1人遊びをしていたり、活動を先に始めてしまっていたりする子どももいる。そのような子どもに対してスタッフは他の子どもたちの迷惑にならない限り特に注意を促すことはせず、子どもの様子を眺めたり、おしゃべりに付き合ったりしていた。

3.3.2. 各部活動の時間

9/25の活動は、武器部、ボードゲーム部、推し活部、外遊び部、まち探検部、お手伝い部だ。筆者はボードゲーム部に参加した。スタッフとして加わっていたのは筆者のみで、この日の部員は小学2年生男子と小学3年生女子が各1名、小学4年生男子2名（Aさん、Bさんとする）の計4人であった。複数種類のボードゲームが入った箱のなかから子どもたちが4種類のゲームを選び遊ぶ。筆者がスタッフとして彼らをリードする必要はなく、小学4年生のAさんがゲームの説明や場の進行などを進んで行ってくれる。また、もう1人の小学4年生でのんびりした感じのBさんが2種類目のゲームでうまくついていけてなかった時にはAさんが「取ってるカードの数が少ない人は近くから見ていいよ」とルール調整もしてくれた。また、最後のゲームの順番決めで学年が若い順番で遊ぶことになった際に、「ねえ、何年生？」と子どもたちが尋ね合っていた。お互いに親しげな様子でゲームを楽しんでいたため顔見知りだと勘違いしていたのだが、あとから他のスタッフに確認すると、初対面か、数回会ったことがあるだけの児童がボードゲーム部に集まっていたようだった。

3.3.3. おふるまい・まとめの時間

おふるまいの時間では、お知り合いの時間に使用した部屋に全員が集合してゆるく円になり、武器部、ボードゲーム部、推し活部、外遊び部、まち探検部、お手伝い部の発表者がその日の活動内容を報告する。報告者は主にそれぞれの活動を見守っていたスタッフで、活動の流れと特筆すべき出来事を共有したり製作物を披露したりしていた。この時間においても、隣同士でおしゃべりしている子どもや一人遊びをしている子どもがいたが、スタッフは特に注意しておらず各々が思い思いの時間を過ごしていた。

3.3.4. スタッフミーティング

子どもたちが帰宅し部屋の片づけが終了すると、スタッフは扉の角の一階に集まり、スタッフとボランティアのみでのミーティングをおこなう。お知り合いの時間やおふるまいの時間は全体での活動だが、部活動の時間については部活ごとに分かれた活動となり、スタッフやボランティアも自分たちが見守っていた活動の参加者の様子しか把握できていない。そのため、おふるまいの時間で共有したよりも詳細な活動内容や子どもたちの様子、特に印象に残った出来事や困ったことの共有をすることが主な目的であった。

3.3.5. 活動に参加しての感想

活動に参加して、イロイロ倶楽部の非常に解放的な雰囲気に少し驚いた。イロイロ倶楽部内では、

「お知り合いの時間」などで見られたように、スタッフが話をしている最中に部屋の隅で遊んでいる子どもがいてもある程度放任されている。また、旅行時に偶然通りがかった男性や大阪在住の大学生である筆者がボランティアとして快く迎え入れられていることから、外部の人間を積極的に受け入れていこうという雰囲気が感じられる。自由な空気のなか、子どもたちは室内を駆け回ったり取組みをしたりとのびのびと楽しそうにふるまっていた。

3.4. 調査から生まれた疑問

事前調査や活動への参加から、うえだイロイロ俱楽部について私が抱いた主な疑問は以下の2点である。

① うえだイロイロ俱楽部で芸術の活動を行っていない理由

犀の角は劇場施設を持つ場所であり、うえだイロイロ俱楽部を運営するスタッフのなかにも演劇関係者がいる。それにも関わらず、現在のうえだイロイロ俱楽部の活動として、演劇ワークショップや楽器演奏体験のような、わかりやすく芸術活動と結びついている活動は実施されていない。ここには何か理由があるのか疑問に思った。

② 特に配慮が必要な子どもへの対応

3.3.5. でも触れたように、うえだイロイロ俱楽部で子どもたちは非常にのびのびと楽しそうに活動する。このような子どもたちの様子を見ていると、発達障がいの傾向がみられる子どもが数名いた。しかし彼らに対してスタッフが特別何かをおこなっているわけではないようで、特に配慮が必要な子どもへの対応についての方針があるのか、気になった。

本節ではこの2つの疑問に対する答えについて、犀の角の劇場スタッフで「うえだイロイロ俱楽部」の事務局も務める村上梓さんへのインタビューを引用しつつ記述していく。以下に村上さんの説明とインタビュー時の情報について簡潔に示しておく。適宜ご参照いただきたい。なお、インタビュー回答文中の（）内は筆者の補足だ。

表4 うえだイロイロ俱楽部 インタビュー基本情報

インタビュー日時・場所	2024/9/27(金)・犀の角 1階カフェスペース
インタビュー回答者	村上 梓さん（合同会社犀の角・舞台・制作 ¹⁷⁾
インタビュー実施者	筆者
回答者について	舞台芸術に関心を持ったのは高校時代に所属していた合唱部で、プロのオペラの子役として出演したとき。うえだイロイロ俱楽部の事業が始まる2021年2月ごろに犀の角を訪れる。東京で舞台に携わる仕事をしていたが、都市部ではない場所で舞台に携わる仕事がしたい、と思うようになり、長野県内を見て回っているうちに、犀の角に出会った。現在は犀の角の劇場スタッフとして働きながら、「うえ

¹⁷ 犀の角. 「《参加者募集》短期研修プログラム「表現/社会/わたしをめぐる冒険」サイノツノ・アーティスト・イン・レジデンス」. 犀の角. http://sainotsuno.org/info/saitsono-air2023_training-program/, (2024/12/17).

だイロイロ俱楽部」の事務局も務めている¹⁸。

3.4.1. 演劇活動がない理由

単純に、演劇活動への参加希望者がいないから、というのが、うえだイロイロ俱楽部に演劇部がない理由だった。スタッフの一人である清水さんは以前「劇あそび部」として子どもたちと一緒に活動していたが、参加希望者がいなくなったため、現在はもっぱら「外遊び部」の引率をしている。一方で、イロイロ俱楽部の活動の主要目的についてスタッフ内で重ねられた議論の結果、俱楽部の目的は文化振興だというのが共通認識になっている。村上さんにとての文化振興とは、舞台を観に行く人や関心を持つ人を増やすこと。また舞台芸術が生活の中に当たり前にある状態を作ることだ。イロイロ俱楽部に参加している子どもたちやその保護者は、犀の角が劇場であることやスタッフが演劇を生業にしている人間だとほとんど認識していないかもしれない。それでも、子どもたちが、犀の角に集う、親や教師とは一風変わった完成を持つアーティストや犀の角スタッフと出会うことで、新たな価値観の存在を感じ取ってほしいと村上さんは語る。

村上梓さん（以下、村上さん）：犀の角で子ども向けの公演をするときに「ああこの人（村上さん）たちの本業ってこれ（演劇のスタッフ）なんだ」っていうのを1回でも見てもらうとかして、大人になったときに「あああそこ（犀の角）って劇場だったんだ」とか、「ただ遊んでくれてたけど、実は舞台で作品をつくっていて、ああいう人たちが身近にいたんだな」っていう記憶があることによって、興味を持つきっかけとかにいざれなればいいなって。本当に地道な種まきでしかないかな。今イロイロ俱楽部に来てるからといって、大人になって週末舞台を観に行くような人間になるかといったら全然そんなことはないんだろうけど、1000人いるなかでそういう人が1人でもいればいいなって思ってやっていけるから。だから、そんなすぐにつながるわけではなくて。続けることが大事。

活動内容はともかく、子どもたちが劇場に愛着をもって足を運び、そこで演劇/芸術的な感性を強く持つ大人たちと関わること。そしてこの経験が、将来子どもたちが舞台芸術に親しむに至る1つのきっかけになること。これが、イロイロ俱楽部での活動の願いなのだ。

3.4.2. あえて「ケア」しない

発達障がい傾向があるなど、特性をもつ子どもたちがイロイロ俱楽部にも参加していた。彼らに対してスタッフはどのように向き合っているのだろうか。子どもが初めて活動に参加する際は保護者へのヒアリングとして、子どもについて気になることを書くアンケートを実施しているが、スタッフは軽く目を通すだけだ¹⁹。私が活動に参加した際も、なにか特別な配慮がなされているようには見えなかった。この対応についても、スタッフたちは議論を重ねたらしい。

¹⁸ 福井尚子(2024/7/10). 『「何気ない自由」が尊重し合える社会をつくるには？ 長野県上田市にある文化施設「犀の角」をたずねて』. こここ. <https://co-coco.jp/series/atelier/sainotsuno/>, (2024/12/17).

¹⁹ 福井尚子(2024/7/10). 『「何気ない自由」が尊重し合える社会をつくるには？ 長野県上田市にある文化施設「犀の角」をたずねて』, 前掲サイト.

村上さん：べつに私たちが障がいを持つ子どもたちへのケアを勉強してもいいんだけど、私たちはケアの専門家ではないし。劇場のスタッフがイロイロ俱楽部をやっているっていうのが大事だよね、って。勉強して、どういう対応をしたらいいかを知ってもいいんだけど、それを知らずに、フラットな目で子どもたちと対峙するのを大事にしてるっていうか。

障がいのある子どもが社会で生きていくにあたって出会う人のなかで、その子どもの障がいのことを知らずに関わる人の方が多いと考えられる。そのような人々と子どもたちがこの先関わっていくためには、障がいへの理解は一定あるものの「ケア」を十分に与えられる場ではない環境で過ごすことも大切なのではないか、という意見でスタッフは一致している。

村上さん：前情報があった状態で出会うんじゃなくて、その人と話をして、この人こういうことなのかな、っていうのがあったら親御さんに話を聞いてみたりする。(中略) その人の過ごしたい過ごし方が何なのかなっていうのをまず考える。イロイロ俱楽部がどうありたいか、っていうんじゃなくて、来てる人たちがどうしたいかを優先する。障害のあるなしとか国籍とか関係なく、「その人にとって心地よいやり方」みたいなのは、学べばいっそう寄りそってあげられるんだけど、私たちなりのやり方でまずはやってみる、みたいな感じ。

イロイロ俱楽部は「ケアの専門家」が集まる福祉施設ではない。個性豊かな劇場スタッフや地域の大人が集まる放課後の居場所である。特性を持つ子どもが参加しているとき、事前情報をもとに、その子どもをイロイロ俱楽部としてどう受け入れるのかを考えるよりもむしろ、お互いについて何も知らない人間同士として関わり、活動を通して相手のことを理解しながら関係性を築いていくことを大切にしているのだ。

4. 犀の角と NPO 法人場作りネット

本章と次の第5章では、犀の角と協働して活動をおこなう NPO 法人場作りネット（以下、場作りネットと記載）と NPO 法人リベルテ（以下、リベルテと記載）について紹介する。場作りネットは、長野県上田市を拠点に、生活に困窮する人々等を対象とした相談支援事業と、一時宿泊施設の運営を行っている。リベルテも上田市を拠点にしており、障害のある人を対象にした福祉事務（就労継続支援 B 型と生活介護の多機能型事業所を 2 事業、特定相談支援）を上田市街に 4 箇所で展開²⁰している団体だ。ここからは、それぞれの団体からみた「犀の角」の存在について整理し、親しみやすい劇場の在り方の手掛かりを見出したい。

4.1. NPO 法人場作りネットについて

場作りネットは長野県上田市を拠点に「場作り」を行っている NPO 法人だ。様々なツールで年間 10,000 件の生活相談を受け、そこから見えてくる社会課題を可視化すること。そして市民の力を結集して課題に取り組むことで、私たちの繋がる力を高めながら、「困り事」をきっかけにした社会作りを

²⁰ こここ. 「NPO 法人リベルテ」. こここ. <https://co-coco.jp/index/liberte/>. (2024/12/18).

行うことを「場作り」と呼び、日々場作りに取り組んでいる²¹。犀の角と連携した活動としてもっとも大きなものは2020年12月から始まった²²「やどかりハウス」である。女性や母子を中心とするだれもが困ったときに「犀の角」のゲストハウスに一時宿泊できる事業で、「犀の角」としては宿泊場所の提供をおこなっている。2022年度のアンケートでは「精神的な逃げ場」を必要とする人で「家庭の悩み」を抱えた人が最も多く利用²³していることが明らかになった。

NPO法人場作りネットのスタッフとして取材に答えてくださったのは場作りネット副理事長の元島生さんと理事の秋山紅葉さんである。以下にインタビュー日時・場所と彼らのプロフィールについて簡単に整理する。

表5 場作りネット インタビュー基本情報

日時・場所	2024/9/25(水)・犀の角1階カフェスペース
回答者	元島生さん(場作りネット副理事長)、秋山紅葉(場作りネット理事)
実施者	筆者
回答者について (元島さん)	日本福祉大学を卒業後、学童保育などで勤務のち場作りネットを立ち上げる。多世代に対応する総合的な相談事業を受託している ²⁴ 。
回答者について (秋山さん)	精神科病院での勤務を経て、場作りネットでの活動を開始。様々な価値観の人が集まる場で関係性を構築することで、医療制度では救うことのできていなかった人々を救えるようにしようと模索している。

4.2. 場作りネットと犀の角の関係の変遷

場作りネットと犀の角の関係が深まったのは、2020年に新型コロナウイルスパンデミックが発生してからだ。それ以前にも、元島さんが個人的に犀の角のステージで歌のパフォーマンスをしたり、知事の秋山紅葉さんが観劇に訪れたりすることはあつものの、彼らにとって少し敷居の高い「劇場」であったようだ。

秋山紅葉さん(以下、秋山さん)：コロナ渦以前の犀の角も、ほかと繋がっていろいろやるっていうことは試行してたと思うけど、どっちかっていうと「劇場」っていうイメージかな。私のなかでは少し扉が重いイメージだった。

秋山さんのコメントにもあるように、犀の角はコロナ以前から地元のNPO法人リベルテと協働して、障がいを持つリベルテのメンバーが犀の角でカフェを開店するなど、地域と連携した、演劇以外の活動も行っていた。それでもなおあった近づきがたいイメージがコロナを機にどう変わったのだろう

²¹ NPO法人場作りネット、「ホーム」。NPO法人場作りネット。<https://buzzcre.net/>, (2024/12/17).

²² やどかりハウスの日々(2023/11/5)。「やどかりハウスとは～街に生まれた雨風しのぐ宿～」.note.<https://note.com/yadokarihouse22/n/n63bceb07cea2>, (2024/12/17).

²³ やどかりハウスの日々(2023/3/8)。「2022年度やどかりハウス利用者アンケート回答」.note.

https://note.com/yadokarihouse22/n/n855c1369261a?magazine_key=mb002db6f3c22, (2024/12/17).

²⁴ NIPPUKU FUTURES.「苦しみを抱えて生きる人と共に、新しい支援のカタチを考える」.日本福祉大学. <https://www.n-fukushi.ac.jp/ad/love/interview/index05.html>, (2024/12/17).

か。

元島生さん（以下、元島さん）：俺もなんかね、歌いに来る以外は別に来ない場所だった。何かないと行きづらい感じ。コロナになってからそれが変わった。ふっと、「寄ってみよう」って車を止めて寄る場所になったんですよ。空間があるから。明確に「演劇をやるための場所」じゃなくなったから。コロナで空白ができる感じがあって、それに敏感な人たちが集まっていたような気がする。（中略）近所の歓楽街で働く女性が犀の角でお茶を飲んでから出勤していたり、ホームレスの方が来ていたり。そういう余白に吸い寄せられているいろんな人たちが来る時間だったような気がする。

コロナ以前の犀の角はリベルテとの協働など劇場内に留まらない活動を試みてはいた。しかしそれでも演劇に親しむ者以外は近寄りがたく感じてしまうようなイメージは残っていた。新型コロナウイルスの蔓延により、劇場での演劇公演、ゲストハウスでの宿泊、カフェでの飲食、そのすべてを自粛せざる得なくなり、犀の角がただの「空間」としてしか存在できなくなってしまった。犀の角は（少なくとも場作りネットのスタッフやその支援を受ける人々にとって）地域の人が気軽に立ち寄れる劇場になったのだ。コロナ渦が終息したといえる2024年9月（取材時）でも、犀の角のカフェスペースは場作りネットのミーティング場所として使用されたり、誰でも参加可能な食事会が開かれたりしている。これを見ると、コロナ渦で親しみやすさをまとった犀の角はその開放性を保ったままのように感じられる。これを元島さんに伝えてみると、意外な答えが返ってきた。

元島さん：（開放性が保たれているかどうか）自分たちじゃもう分かんない。コロナの時に明らかに変わって、場作りネットが入ってきてやどかりハウスを利用する方々が押し寄せるように犀の角へ訪れた3～4年間だった。そこから派生するかたちで、子どもたちが来たり生きづらい人が店を利用しに来たり、っていう状態に今はなってるから。「空白」とはまた違うにかがここにもうすでに生まれていて、それが続いているんだとは思うけど、それが「地域に開いた」感じになっているかは…。種類の違う「空白」になっているんじゃないかな。コロナの時にポンとあいた空間というよりは、ある種の人々が来ていよいよっていう場にはなったんじゃないかな。逆に言うとそれで来づらくなった人もおそらくいるんだとは思うけど。

訪れる層が拡大することで、逆に訪れにくくなってしまう人が出る可能性を完全になくすことは難しいだろう。ただ、元島さんのように、その可能性を意識しておくことで、特定の人物の訪問を拒絶する態度を示してしまうような劇場になることは避けられるように思った。

4.3. まざり合う関係性

一時宿泊施設として運営されているやどかりハウスの取組において犀の角が担っているのは宿泊場所の提供で、具体的には、ゲストハウスとして営業している部屋の一部をやどかりハウスとして貸し出している。利用者との連絡や相談受付をおこなうのは場作りネットだ。明確に役割分担したうえで、犀の角という文化施設と場作りネットという支援団体が協働しているように見えるが、実はその境界は曖昧だ。

秋山さん：はっきり分かれてないんですよね。入り混じって。犀の角を利用してた人がやどかり（やどかりハウスのこと）を利用することもあるし、やどかりを利用してたりやどかりのスタッフだったりする人が犀の角に泊まることもあるし。（中略）やどかりハウスの利用者に対して、荒井さん²⁵とか梓さん²⁶とかから、舞台設営とかチケットのもぎりとか受付とかで手伝ってもらったらチケット代払わずに見ていいよ、っていう感じで声かけてもらうこともあるって。私たちが入って（やどかり利用者と犀の角での文化芸術活動を）つなぐというよりは、劇場の人が声かけて関係性をつくってくれてる。

この、役割分担をあえて明確にしないという姿勢は、生きづらさを抱える人々の支援という、行政も担っている領域で活動する場作りネットの活動全体とも大きく関わっている。

元島さん：生活保護とか、セーフティネットになっている制度はあるけれど、制度で人は救われないっていうか。例えば、困窮している人を生活保護につないで、安心して（保護受給者に）連絡とらなくなったら自殺したとかいうケースがいっぱいあるんですよ。それは、お金があれば人間は幸せなんじゃなくって、人とのつながりみたいなものが必要なんだと思うんですよね。そういう意味で、制度の限界みたいなものをどう理解してるかっていうのがすごく大事だと思うんですけども。必ずしもすべてのことを行行政がやるべきだとは思っていなくて。むしろ、分業化しているがゆえに、人間の本当のつながりが失われていくともいえるかもしれない。

たとえば、虐待を受けている疑いのある子どもが身の回りにいるとき、その家の親や子どもに、困ったときは話を聞くよと声をかけるなど、制度に頼らず人間どうしのコミュニケーションで解決できることは山ほどあるはずだと元島さんは語る。

元島さん：虐待を見つけたら児童相談所へ通報しなきゃいけない、っていうふうに（制度頼みに）なることで、周りの人はなにもやらなくていいよっていうふうになる。そうなると、人間のなかに、解決する力が無くなってしまう。（中略）人々がもう一回繋がり直すための余白とか、デザインをするべきだと思ってる。

行政制度を充実させることやそれに頼ることと、役割を明確に線引きしてしまわず自分たちにできることをしようとしている。両方の重要性を認識しながら活動するのが場作りネットであり、そのもとでやどかりハウスが運営されているからこそ、やどかりハウス利用者が犀の角で新しい出会いを得られるのだろう。

5. NPO 法人リベルテ

NPO 法人リベルテは、長野県上田市で、2013 年 4 月から活動を続ける福祉施設だ。障害のある人が

²⁵ 犀の角代表の荒井洋文さんのこと。

²⁶ 犀の角スタッフ 村上梓さんのこと。

アート活動を行うアトリエ「スタジオライト」を市内4箇所で展開している²⁷。障害のある方たちと、「何気ない自由」や「権利」を尊重していける社会や人、関係づくりを行っていくことを目標に設立された法人で、多種多様な文化活動もおこなっている²⁸。4章でも少し触れたとおり、リベルテのメンバーが犀の角でカフェを間借り営業する「リベルテの角」などでリベルテと犀の角はこれまで密接な関係を築いてきた。今回のインタビューには、リベルテの代表である武捨和貴さんが回答してくださいました。以下にプロフィールを示す。

表 6 NPO 法人リベルテ インタビュー基本情報

インタビュー日時・場所	2024/9/26(木)・ton -屯- (リベルテが運営するカフェ)
インタビュー回答者	リベルテ代表 武捨和貴さん
インタビュー実施者	筆者
回答者について ²⁹	長野県上田市出身。高校を卒業後、京都造形芸術大学（現在の京都芸術大学）の染色コースに進学するが、技術習得よりも「芸術と社会」といった分野に関心を持つ。帰郷後、福祉施設で創作する作家の絵に衝撃を受け、その作家が所属する施設で勤務し入所者の創作活動を支える。施設退職後の2013年4月にNPO法人リベルテを立ち上げた。

5.1. リベルテと犀の角の関係の変遷

犀の角の代表である荒井洋文さんと武捨さんは平成27(2015)年、信州大学の「地域戦略プロフェッショナル・ゼミ」で荒井さんと出会う。これをきっかけに2人の交流は続き、犀の角オープン後はリベルテのメンバー（利用者）の作品展示や、講座の会場として犀の角を利用するなど、徐々に関係性を深めていく。コロナ渦となり、メンバーの安全を守るために犀の角との協働は一旦休止てしまっていることもあったが、コロナの前後で、彼らの関係性に変化はあったのだろうか。

武捨和貴さん（以下、武捨さん）：荒井さんから見るリベルテは、芸術をつくってる側の視点なので。リベルテは、どんな人を観客として想定しているんだろう、っていう視点で問い合わせをしてくれることが多くなつたな、って思つていて。今まででは、どう作るかっていうようなことを話すことが多かったように思うんですけども、（今は）一緒にやることで、リベルテにとって、（作品を）出すことで、どういう風に地域の人が見るだろうか、とかっていう視点で（見てくれるようになった）。

コロナ前も犀の角とリベルテは連携した活動をしていたが、武捨さんをはじめとするリベルテスタッフ側は、犀の角のスタッフに障がいへの理解をどれだけ求めるのか、犀の角スタッフ側は、芸術を扱うものとしてどう振る舞うのか、についてそれぞれ模索していたようだ。

²⁷ 福井尚子（2024/9/18）. 「アートの力を借りて福祉を開くとは？NPO法人リベルテ 武捨和貴さんをたずねて」. こここ. <https://co-coco.jp/series/work/kazutakamusya/>, (2024/12/17).

²⁸ NPO法人リベルテ. 「設立趣旨」. NPO法人リベルテ. <https://npo-liberte.org/about/charter/>, (2024/12/17).

²⁹ 福井尚子（2024/9/18）. 「アートの力を借りて福祉を開くとは？NPO法人リベルテ 武捨和貴さんをたずねて」, 前掲 Web サイト

今は、お互いにお互いを見てないというか。一緒に作ってるものをみたときに、それぞれの視点で話す、っていうことをすることで、一緒に作ってるものに対してこういう意見なのか、っていうふうに関係がちょっと変わっていった。荒井さんにとって、メンバーをケア的にみてく、っていう視座の取り方じゃなくて、僕・リベルテ・メンバー・茶色さん・荒井さん、みたいな流れで、何を作ってるんだろうみたいな、視座っていうか、スタンスの取り方になってきたなって。これは、コロナになったからなのか、製作委託をもう3年くらいやってるからなのか(わからないけど。)荒井さんも、一緒につくってるっていう感じの中にいてくださってるっていうか。一緒につくってるっていう感じで話してくださるっていうのはすごく(いい)。

犀の角という文化施設と、リベルテという福祉施設それぞれの立場から作品の案を出し、すり合わせていくのではなく、ともに試行錯誤しながら作り上げたものについて、みなで意見を出し合う。このような創作スタイルになることで、犀の角スタッフがもつ芸術創作者の視点や市民からみた視点を取り入れやすくなつたのであろう。

6. 地域に開かれた劇場運営のために

本報告書では、犀の角が運営する子ども向けの部活「うえだイロイロ俱楽部」と、犀の角と連携した活動をおこなうNPO法人場作りネット、NPO法人リベルテの3つについて、おもにインタビュー調査から明らかになった活動内容や活動方針、運営者の想いについて記してきた。これらを整理すると、舞台芸術に親しみが無かった人々にも地域の劇場や舞台芸術に親しむきっかけをもたらすためのヒントが見えてきた。

6.1. 「公演の場」ではない劇場

犀の角のように、舞台芸術関係者だけでなく様々な興味関心を持つ人が集う劇場を実現するためのひとつの案として、文化振興を長期的な視点で捉えた企画の実施を提案したい。犀の角が劇場機能を果たせなくなったときに初めて、劇場の敷居の高さを感じずに犀の角へ立ち寄れるようになった、という元島さんのお話³⁰は印象的だった。彼の経験から、演劇に親しみのない市民が劇場に訪れやすくなるためには、劇場が一旦「演劇をやるために場所」ではなくなることがひとつの有効な手段だと考えられる。しかし一方で、コロナ渦は大変特殊な状況であった。ホール1の年間稼働率が34.3%減少、入場者数については76.2%も減少するような事態³¹は頻繁には起こらないだろうし、そもそも、このように特殊な状態を機に劇場イメージが刷新されることを期待するのも非現実的だ。劇場自ら発信し、今まで舞台芸術に触れたことが無かった人も足を運んでくれるような場所をつくる。この実現のためのヒントとして、3.4.1.で紹介した、犀の角スタッフ村上さんの考え方を参照できるのではないかと筆者は考えた。村上さんは、「舞台を観に行く人や関心を持つ人を増やすこと」を文化振興だと捉えている。そして、犀の角という劇場で子どもたちが芸術関係者に会うことで、彼らが将来舞台

³⁰ 4.2.参照

³¹ 公益社団法人全国公立文化施設協会(2022年3月)、「令和3年度 創劇場・音楽堂等の運営に関するコロナ感染症影響調査 報告書」, https://www.zenkoubun.jp/publication/pdf/afca/r03/r03_covid19.pdf.

芸術に親しむきっかけが生まれることを願いながら、芸術に特化せず様々な活動を取り入れたイロイロ俱楽部を運営している。つまり、舞台芸術に親しみのない人でも訪れやすい劇場にするためにはまず、公演の場としての劇場という機能を一旦脇におく必要がある。そのうえで、劇場という場やそこにいる職員と来場者の交流、そこから生まれる思い出が印象的なものになるようにデザインすることが重要だろう。この思い出が印象的であればあるほど、将来的に舞台芸術に親しむ人が増える可能性も高まると予測できる。たとえば、劇場内の楽屋やホワイエを作業スペースとして開放し³²、子どもたちに向けては劇場職員やアーティストが学習や工作のサポートをおこなうようにしたり、大人には仕事場所として使用してもらい、休憩時間に職員やアーティストと交流できるようにしたりすることで、彼らが劇場に向かう理由とそこでの交流をつくりだせそうだ。これを継続することで少なくとも彼らにとって、劇場がまったく無関係な場所ではなくなるはずだ。ときには、劇場職員おすすめの公演を彼らに紹介してみるのもよいだろう。もちろん、これらの取り組みがどの程度地域住民の来場回数の増加につながるのかは不明確である。しかし、劇場は芸術のための場所だ、という考えに囚われすぎず、少し長期的な視点をもって劇場での取り組みを考えてみることで、劇場に親しむ人が増える可能性は多いにある。新しく取り組みを始める場合に、継続的なアンケート調査などでその効果測定を試みるのも有益かもしれない。

6.2. 劇場での交流

劇場として新たな取り組みをおこない始めたあと、劇場に訪れる人にとって居心地のよい場を作ること、再び訪れたいと思えるような人間関係を築くことが次のゴールになるだろう。このときに大切にしたいのは、劇場としての役割分担は留めたまま、劇場職員としては、いち市民と同じ視点で来場者に関わることだ。やどかりハウスを運営する場作りネットの元島さんは制度や役割分担に囚われすぎることで人間同士のコミュニケーションが阻害されてしまうことの危険性を指摘していた。やどかりハウスの運営においては、場作りネットがハウス利用者の相談窓口となり、扉の角は宿泊場所を提供するという大まかな役割分担はある。しかし、扉の角スタッフが、劇場での公演の手伝いをハウス利用者に持ち掛けるなど、扉の角は宿泊場所の提供以外にもやどかりハウスと関わりを持とうとしている。イロイロ俱楽部の活動においても、特性を持つ子どもたちに対して扉の角のスタッフは「自分たちはケアの専門家ではなく劇場で働く演劇人である」と自らの立ち位置を明確にし、「あえてケアしない」という関わり方を選択していた。ただよりミクロな、活動内での関わりかたのレベルで見えてみると、俱楽部に参加する子どもたちがどうしたいかを観察し、自分たちが最善だと思う関わり方を関係性の中から見つけ出そうとしているようだった。扉の角とリベルテの共同制作も役割の違いを取り扱った活動として捉えられるだろう。活動開始当初はリベルテスタッフと扉の角スタッフがそれぞれの立場から制作したいものを構想し、2団体で協力してどんなものをつくれそうかを話し合っていた。しかし、共同制作の回数を重ねコロナ渦も経験すると、一つのものを一緒につくっていくという意識が生まれたと武捨さんは語る。制作過程を、所属している団体というよりはむしろいち個人として眺め意見を交換してブラッシュアップするというという制作の流れに変わっていったのだ。このように、扉の角とそれにかかわる団体は共通して、団体としての役割や立場を意識しつつも、スタッフとしてはそこに固定されすぎず、目の前にいる相手（作品）がもつ特徴を掴み、彼らと個別の関係を

³² 余談だが、長野県上田市にあるホール「サントミューゼ」内の空きスペースには机と椅子が置かれており、児童・生徒が勉強スペースとして使っていたり、ホール利用者が一息するスペースとして使われていたりする。

築こうとしていた。彼らの関係性づくりを参考に、新たに打ち出す企画の場合はその参加者と職員の関わり方について考えたり、そもそも劇場として地域の団体との共同方針や方針を定めてみたりしてもよいだろう。

7. おわりに

本報告書では、長野県上田市にある民間文化施設「犀の角」での子ども向けの部活動「うえだイロイロ俱楽部」と、犀の角と協働して活動をおこなうNPO法人場作りネット、NPO法人リベルテへの取材から得た情報を整理した。そこから、劇場により親しみをもってもらうためのヒントとして、文化振興を長期的な視点でとらえた企画実施と、役割や立場を前提にしながらも目の前の相手とのやりとりを重視する関係性構築を見出せた。どちらについても、取り入れてすぐに目に見える効果があるようなものではない。しかし、より多くの人が集い楽しむ場としての劇場の実現のために、犀の角や場作りネット、リベルテの考え方を下敷きにして、劇場職員は新たな一步を踏み出してみてもよいのではないだろうか。

8. 参考文献

上田市 「第2次上田市子ども・子育て支援事業計画」策定のためのニーズ調査 調査結果報告書.

2019年3月. <https://www.city.ueda.nagano.jp/uploaded/attachment/55992.pdf> .

公益社団法人全国公立文化施設協会(2022年3月).「令和3年度 劇場・音楽堂等の運営に関するコロナ感染症影響調査 報告書」,

https://www.zenkoubun.jp/publication/pdf/afca/r03/r03_covid19.pdf

長野県県民文化部こども若者局. 子どもと子育て家庭の生活実態調査 調査結果の概要. 2023年2月.

https://www.pref.nagano.lg.jp/jisedai/kyoiku/kodomo/shisaku/documents/gaiyouban_2.pdf

アフタフバーバン信州. 「アフタフバーバン信州紹介」. アフタフバーバン信州.

<https://asobigokorobase.jimdofree.com/%E7%B4%B9%E4%BB%8B/>, (2024/12/17).

NPO法人場作りネット. 「ホーム」. NPO法人場作りネット. <https://buzzcre.net/>, (2024/12/17).

こここ. 「NPO法人リベルテ」. こここ. <https://co-coco.jp/index/liberte/>, (2024/12/18).

こども家庭庁. 「放課後児童健全育成事業について」. こども家庭庁.

https://www.cfa.go.jp/policies/kosodateshien/houkago_jidou/overview, (2024/12/17).

犀の角. 「犀の角について」. 犀の角. <http://sainotsuno.org/about/>, (2024/12/17).

犀の角. 「ゲストハウス」. 犀の角. <http://sainotsuno.org/guesthouse/>, (2024/12/17).

犀の角. 「令和6年度の『うえだイロイロ俱楽部』参加者を募集します！」. 犀の角.

<http://sainotsuno.org/event/iroiro2024/>, (2024/12/17).

犀の角. 「《参加者募集》短期研修プログラム「表現/社会/わたしをめぐる冒険」 サイノツノ・アーティスト・イン・レジデンス」. 犀の角. http://sainotsuno.org/info/saitsono-air2023_training-program/, (2024/12/17).

NIPPUKU FUTURES. 「苦しみを抱えて生きる人と共に、新しい支援のカタチを考える」. 日本福祉大学. <https://www.n-fukushi.ac.jp/ad/love/interview/index05.html>, (2024/12/17).

福井尚子(2024/7/10). 『「何気ない自由」が尊重し合える社会をつくるには? 長野県上田市にある文化施設「犀の角」をたずねて』. こここ. <https://co-coco.jp/series/atelier/sainotsuno/>, (2024/12/17).

福井尚子 (2024/9/18) . 「アートの力を借りて福祉を開くとは? NPO法人リベルテ 武捨和貴さんをたずねて」. こここ. <https://co-coco.jp/series/work/kazutakamusya/>, (2024/12/17).

NPO法人リベルテ. 「設立趣旨」. NPO法人リベルテ. <https://npo-liberte.org/about/charter/>, (2024/12/17).

やどかりハウスの日々(2023/3/8). 「2022年度やどかりハウス利用者アンケート回答」. note.

https://note.com/yadokarihouse22/n/n855c1369261a?magazine_key=mb002db6f3c22,
(2024/12/17).

やどかりハウスの日々(2023/11/5). 「やどかりハウスとは～街に生まれた雨風しのぐ宿～」. note.

<https://note.com/yadokarihouse22/n/n63bceb07cea2>, (2024/12/17).

山側(2019/8/9). 『城下町で最古の商店街に現れた劇場の物語！長野県上田市にシアター&ゲストハウス「犀の角」ができるまで』. 山側. <https://yama-gawa.com/?p=6794>, (2024/12/17).